

みんなで取り組もう ふるさとの

(頓原町)

かみまち しもまち
上町・下町

地域の概要

役場を中心とする旧国道（現在町道）沿い1.4 kmに連なる中心街で、当町の2割を占める世帯、人口が集中しています。しかし、少子高齢化が進み、後継者のいない家もあります。

取り組み概要

① 経過

平成11年10月に町区組長会にて事業説明を行い、各組で話し合いをしたり、検討委員会で協議等を重ねてきました。その中でかつて盛んに行われた盆踊りを復活させようという意見でまとまりました。

② 取り組みの状況

① ふるさと盆踊りの復活

頓原町の一番の中心街である町区が、最近では高齢化が進み、空家が数多く見られるようになってきました。また、昔盛んに行われた盆踊りは町区において現在まったく影を失っており、このままでは、益々活気と夢のない地域になりつつあります。

そんな中、盆踊り等を復活させることで、町区の活性化と住民コミュニケーションを深めようと考えました。盆踊りの歌を新たに収録し直して、後世に継承するとともに、平成13年度のふるさと夏祭りにあわせて地区内全員に歌の周知をしました。また盆踊りを覚えてもらうため、指導者を招いて数回練習会を行い、地区住民の意気を高めました。備品としては、宮太鼓一式（屋台設備含）、祭礼はっぴ（赤色模様60着、青色模様40着）等を購入しました。

その結果、当日の盆踊りには、年齢性別を問わず、多数のみなさんの参加がありました。軽トラックに宮太鼓を載せて太鼓をたたき、唄を歌い、今までにない華やかさと壮大さで、夏祭りを彩りました。

③ 成果

このプランはいきなり住民の暮らしに役立つものではありません。しかし、今回夏祭りにあわせて盆踊りを復活させたことは、町区の住民を活気だたせる一つの起爆剤になっただけでなく、頓原町区にも伝統ある盆踊りがあることを周知させました。老若男女みんなで、唄って踊ってに

祭りの復活

集落データ

- 市町村名 頓原町
- 戸数 80、93戸
- ジャンル 文化
- 集落名 町区
- 高齢化率 37、36%
- 策定年度 平成12年度

ぎやかにしたことは、さびれてきている町並みに一瞬花火を打ち上げたようでした。これをこの先、夏祭りのときだけでなく、いろいろなイベントの場面で行うことで、もっと町区が活性化すると思われます。

4 課題

- ① 踊りや唄の周知徹底をもう少ししたい。
- ② 法被がもう少しあればよい。
- ③ 夏祭りとおわせて行ったので町道の歩行者天国の邪魔になってしまった。



集落代表者の声

町区自治委員 小林 勝文

役場から話をされたり、初めて組長会で話をした時は、はたして町区はまとまるのだろうか、と心配しました。それほどいろいろな意見が出たりしてまったく統一しませんでした。しかし検討委員会をつくって、委員さんに議論していただいた結果、すばらしいプランになったように思います。現在本当に町区の町並みはさびしいものとなっています。もちろんこの流れを食い止めることは出来ないかもしれませんが、せめて残っている我々は元気に、頓原の伝統を少しでも後世に伝承できるように今後がんばっていきたく感じています。

今後のビジョン

今後は夏祭りだけでなく、いろいろな機会に盆踊りを披露していきたい。また、今回は町区の方が主でしたが、これからは頓原地区に対象を広げ、盆踊りを普及していきたい。そして、頓原地区の伝統文化として後世に残し、子供たちが普段でも口ずさんだり、踊ったりするようになればいいと考えています。

問い合わせ先

頓原町役場 企画課
☎0854-72-0311

みんなで守ろう川平、

(出雲市)

かわ ひら しも み さか
川平・下三坂

地域の概要

出雲市稗原町川平・下三坂集落は、出雲市の中心部から11km、市の南部に位置した農山村地域である。大きな川はなく地形は盆地状である。住民のほとんどが出雲市中心部への通勤・通学者であり、道路網が整備されてからは自家用車による市外への遠距離通勤者も多くなっている。人口は、多少の変動は見られるが、ほぼ安定している。本地区の農業は、米作が中心であるが専業農家は少ない。機械化や集約化が急速に進んでおり、県営圃場整備事業により、区画・道路・用排水路等の整備がなされた。

取り組み概要

① 経過

当地域は、常時消防団員がおらず消防車の到着にも時間がかかるため、地域の自主防災組織の充実が重要である。組織を充実させるため、出雲市から平成7年5月に小型動力ポンプ（消防車）の払下げを受け、民間に保管していた。

しかし、いつまでも民間倉庫に保管を依頼してはおけないこと、訓練及び情報の伝達に必要な集合場所がないこと、ポンプや消火活動に必要な物品を格納する場所がないことが問題になっており、この事業を活用し、地域防災組織の拠点として消防ポンプ格納庫を建設した。

建設についての話し合いは、男性はもとより特に女性とおこなった。家庭における防火の分野では、下記の点で昼間家庭にいる女性が特に大きな役割を担うからである。

- ・火災防火の知識を修得し、地域全体の防火意識の高揚を図る。
- ・お互いに協力して活動できる体制を整える。
- ・各家庭の防火診断、初期消火訓練、防火防災意識の啓発活動をおこなう。

② 取り組み状況

① 予防活動

- ・防災に関する知識及び出火防止の徹底
- ・防災計画の作成
- ・放水訓練の実施（毎月第1日曜日午前7時～）
- ・小型消火器・バケツ・応急手当用品の点検、古い消火器の更新（年2回）
- ・初期消火、避難等各種訓練の実施
- ・防火水槽の管理（随時）、防火用水路の清掃（随時）

② 応急活動

- ・地域内の被害状況等の情報収集、防災関係機関への連絡及び要請
- ・初期消火の実施（但し、消防団が災害現場に到着するまでの間）
- ・集団避難活動

下三坂

集落データ

- | | | | |
|-------|-------|-------|------------|
| ●市町村名 | 出雲市 | ●集落名 | 川平・下三坂 |
| ●戸数 | 8、9戸 | ●高齢化率 | 42.9、35.9% |
| ●ジャンル | 環境・景観 | ●策定年度 | 平成11年度 |

・炊き出しや救助物資の配分に対する協力

3 成果

- ① 防火のシンボルができ、防火の大切さを地域に訴えることにつながった。
- ② 自主防災組織の機能が向上した。
 - ・物品の格納庫ができた。
 - ・格納庫を拠点に消防団との情報交換、火災等緊急事態の対応についての研修会が実施できた。また、炊き出し、配分の場所を確保することができた。
 - ・消防団とのネットワークの構築に寄与できた。
- ③ 平成10年3月8日12時頃隣接町内の原野より出火。川平・下三坂自主防災班は直ちに火災現場に直行して消火した。当日の午前7時に実施したばかりの放水訓練が即刻役立った。



4 課題

- ① 高齢化社会を迎えるにあたり住宅防火対策の推進
- ② 地域に密着した防火対策
- ③ 住宅用消化器等の設置促進

今後のビジョン

災害の発生または発生のおそれがある場合を想定し、川平・下三坂自主防災班は防災関係機関や地域の団体等と協力して、予警報の伝達・避難・消火・救助などの訓練をさらに充実させ実施する。

特に、「防災の日」や「防火週間」には、消防団の指導を頂きながら総合訓練を実施する。

防災のための研修会や防災訓練を積極的に実施し、全員参加による地域ぐるみの防災体制の強化を確立していき、地元住民の安全は地元で守る基盤の一層の充実を図る。

集落代表者の声

角谷自治会長 飯塚 明義

防災体制の強化にあたっては、地域住民が地方自治体や防災関係機関と一体となって、消防、被害者救助、避難・誘導等の防火対策を推進しなければならないことは勿論であるが、一人ひとりが出火防止、初期消火、避難、応急救護などの防災に関する知識を確実に身につけるとともに、日ごろから家庭での水、食料等の備蓄など自主防災に心がけることが重要である。

このためには、地域住民の連帯意識に基づく自主防災組織が必要であって、日頃からの防災訓練などが望ましい。

問い合わせ先

出雲市役所政策課
☎0853-21-2211

木の国づくりと活力ある情報 みんなで創る地域家族

(佐田町)

かな やま だに
銀 山 谷

地域の概要

対象となる銀山谷自治会は、佐田町の北西部に位置し、多伎町と隣接している。現在、3戸11人の地域で、年々人口は減少している。ここはかつて観光栗園を共同経営していたが、現在は閉園している。

取り組み概要

① 経過

銀山谷自治会では、毛津地区振興協議会（コミュニティブロック）との話し合いにより、複数自治会での共同事業とすることを決めた。そこで、毛津地区振興5か年計画を合わせて策定し、この100万円事業を地区の振興策の一環として位置付け、協議を進めた。

② 取り組みの状況

① パソコン購入・ホームページ開設

情報化社会が進展する中で、地域に住む人々がこうした時代に対応し、かつ情報機器に関心を持ってもらうためにパソコン（デスクトップ型）1台を購入した。このパソコンは、地区の人が気軽に利用できるように地区内の公民館（毛津氏子会館）に設置し、今後「パソコン教室」の開校を検討中である。また、地域の情報発信の手段として、ホームページ「IKEZU」を開設した。

② 鎮守の杜整備

地域の人が集う「憩いの広場づくり」として進める鎮守の杜整備は、散策道の整備や、ヒノキの丸太によるベンチづくり、鳥の巣箱づくり、「木の国」看板づくりを行った。

③ 郷土探索誌の発行

郷土について、様々な角度から学習、探索するために郷土探索誌の発行を計画した。この中には、郷土の「歴史」「文化」「人物」「伝説」「地政学」等を掲載し、地域学習の一環として冊子を作成する予定。

発信計画

集落データ

- | | | | |
|-------|------------|-------|----------------------|
| ●市町村名 | 佐田町 | ●集落名 | 銀山谷・毛津本郷・後谷・五谷 |
| ●戸数 | 3、7、15、19戸 | ●高齢化率 | 36.4、23.3、17.7、21.2% |
| ●ジャンル | 文化 | ●策定年度 | 平成11年度 |

3 成果

鎮守の杜整備による散策道の整備によって、行き交う人が多くなり、地域一帯が便利になった。またこうした会場を利用して、夏には盛大な祭りを催すことができた。

パソコンの導入をしたことで、情報に関して、地域住民の関心も出てきており、今後地域の情報提供をしていく環境が整ってきた。

4 課題

銀山谷自治会は、現在世帯数が2戸になり、自治会としての機能を果たしていくには限界がある。今後の活動については、毛津地区振興協議会（コミュニティブロック）との協議の中で、振興協議会事業や複数自治会での共同事業を基本としていくことが必要。

また、郷土探索誌の発行については、今後とも地域活動を通じて地域財産を見つけ出し、地域の連帯感を養うことが必要。



今後のビジョン

- ・鎮守の杜について、さらに広場としての活用ができるように小枝や廃木等の片づけを行い、地域の拠り所としていく。
- ・地域情報発信の手段として開設した、毛津地区のホームページ「IKEZU」を活用していくため、随時更新作業を進める。
- ・盆などに都会から帰ってくる帰省客が楽しめるような「夏祭り」を開催し、地域の良さをPRしていく機会を大切にしながら、地域出身者とのつながりを強化していく。
- ・郷土探索誌の発行については、郷土の誇りとなるような地域の財産を、地域の人で見つけ出していく中で、地域の連帯感を養っていく。

集落代表者の声

散策道の改良で、そこにつながる毛津神社に賑わいが出てきた。秋祭りになどの行事も盛大に行われるようになり、喜んでいる。

また、歩け歩け運動や神楽などの文化活動が、郷土史発行へ向けての探索活動になるなど、地域に活気が出ており、時間はかかるが、情報発信に向け、着実に歩みだしている。

そして地区の夏祭りに「ふるさと毛津物語」が上映されるなど、いろいろな活動を広げることになり、今回の事業の十分な成果が現れている。

問い合わせ先

佐田町役場総務課
☎0853-84-0111

やさしさあふれる大池

地域ぐるみで福祉の輪を広げよう

(湖陵町)

せいほく こうじん なだまちほんぐみ
西北・荒神・灘町・本組
かわしも ちゅうおう だいば
川下・中央・台場

地域の概要

湖陵町の西部、海岸部から国道9号までの地域。土地を基盤とした核たる産業がないこともあって地域内に空家が目立ってきた。近年、地域内に公営住宅と分譲宅地からなる夕日ヶ丘住宅団地が整備されたことから人口は増加しているが、従来の集落においては独居高齢者や高齢者のみの世帯が多く、集落活動の維持が危惧されている。

取り組み概要

① 経過

地域活動の拠点が区であることと、より広く事業効果が及ぶように7つの対象集落（自治会）と11の非対象集落の18集落（自治会）でプランを策定。対象集落の理解もあり、プラン策定の前段で枠組みが決まった。幅広い年齢層の意見を反映したプランとなった事から湖陵町の他集落におけるプラン策定の参考となったことや、早い段階でのプラン策定もあって他市町村からの問い合わせが数多くあった。

② 取り組みの状況

① 大池公民館（地区集会所）の改修工事・備品整備・大池ふれあい広場の設備増設

公民館に身障者用を含む水洗トイレの新設、厨房の拡張、和室への冷房の設置、入口の段差解消により高齢者等にやさしく、ミニディサービス（配食、給食サービス等）に利用しやすい施設に生まれ変わった。また、内部備品の充実で、ミニディサービスの展開を含め交流活動の拠点として活用しやすくなった。また広場の夜間照明増設で高齢者の夜間使用が容易になった。

② 共同アンテナ事業の実施

情報の共有化、地域の活性化や定住促進のための基盤整備の取り組みとして、平成11年度において電気通信格差是正事業を取り入れ、海岸沿線を中心としてテレビ受信状況が悪い地域の解消を図った。（受益戸数66戸）

③ 大池地区福祉ネットワーク『ふれあいの里』事業の実施

平成5年度から年々事業拡大をした取り組みがなされており、介護保険における地域の先導的取り組みと言われている。ミニディサービスを中心とする取り組みの施設整備（ディホームやすらぎの便所の手すり取り付けと段差解消）と備品の充実（車いす、血圧計、ビデオデッキ等）を図った。

④ 地域活動の促進

・花いっぱい運動

自治会館、空き地を利用して花壇を作り、高齢者と子どもで作業し、花づくりをしている。また、ミニディサービスの利用者には、プランタに花を植えてもらい自分達が利用する場合は自分たちできれいにする活動も行っています。

・交流運動会

地区高齢者クラブ、県立光風園利用者、子ども会との交流運動会は平成9年から実施されています。手づくり運動会は地域の世代間、施設利用者との交流と年々深まっています。

・世代間交流

の創造

集落データ

- 市町村名 湖陵町 ●集落名 西北、荒神、瀧町、本組、川下、中央、台場
- 戸数 14、11、9、9、6、6、18戸 ●高齢化率 42、47、40、47、45、46、40%
- ジャンル 文化、環境・景観 ●策定年度 平成11年度

木製の臼、杵を購入し、高齢者と子ども達が餅つきで交流。～餅つき交流～
竹細工（竹馬・竹トンボ・紙鉄砲・水鉄砲・凧づくり）、わら細工（縄ない・草履・わらじ）、裁縫教室（お手玉・袋づくり）、カルタ、おはじきなどの遊びを地区文化祭やふれあい祭りで行い、ミニディサービスの交流時等に役立っている～昔の遊びの継承～

・地域文化継承

地区の神楽保存会の協力で神社の例大祭に子どもによる祭りばやしを奉納することとし、小学5～6年生を対象に竹を使っての笛作りから練習、祭り当日と後継者の確保も併せ、文化での地域交流をしている。（神楽の資材購入を行った）

3 成果

大池地区福祉ネットワーク「ふれあいの里」事業を基盤に、地区のコミュニティーのセンター機能を有する公民館に身障者用を含む水洗トイレの新設、厨房の拡張、和室への冷房の設置、入口の段差解消が施され、高齢者にもやさしい施設となった。

また、世代間交流や地区内にある精神薄弱者施設の利用者との交流など地域活動の促進にも今回の事業が貢献し、地域の連帯感強化につながっている。



4 課題

- ① 地区民の教養とモラルの向上を図りつつ、連帯感を高め、明るい地域づくりを推進する。
 - ② 住みよく明るい生活づくりのため、生活の合理化と改善を図る。
 - ③ よりよい社会環境づくりと地域ぐるみの支えにより、青少年の健全育成と地域福祉活動の推進を図る。
- 以上の目標を定め、活動の活性化を図る。

今後のビジョン

今年度から実施される学校週5日制に対応する地域の受け皿として、大池公民館に「遊学教室」を実施する。昨年度、地区内の中学生以下の保護者にアンケートを行い、教室の対するサポーターが18人いることもあり予算を確保して月1回、土曜日に「遊学教室」を実施する。また、災害時ボランティア活動が迅速に対応できるよう、大池区の体制の整備を行いたい。

集落代表者の声

大池区長 三原 諶

地域の先導的な福祉の取り組みとして評価が高い「ふれあいの里」事業など、「地域の課題は地域で解決する」という積極的な姿勢をもって年々拡大しながら取り組んでいます。

公民館活動を中心として、子どもからお年寄りまでの誰もが助け合い支え合いながら、人に優しく安全で住みやすい大池を目指しています。

問い合わせ先

湖陵町役場総務課
☎0853-43-1212

正月の仮屋行事と子供神楽

(大田市)

つち え しも
土 江 下

地域の概要

市中心部から西へ5 kmほどのとことにある、静岡川沿岸に広がる田代を抱える農業地帯。市中心部から比較的近距离にあるものの、農業の衰退とともに、少子化・高齢化が進行している。

取り組み概要

① 経過

実行委員会を組織し、全戸対象のアンケートによりプランを決定。対象となる土江下だけでなく、土江地区の他の4自治会と合同で取り組むこととした。プランの実施にあたっては、自治会、老人会、子供会、若土会の代表者により、役員会を組織し実行した。

② 取り組みの状況

① 神楽面保存展示ケース作成

自治会で保存している神楽面を正月に集会所に展示し、プランについて周知を図った。(189千円)

② 神楽練習

神楽面を補修するとともに、横笛など使う用具を購入し、週1回の割合で神楽の練習を実施した。(360千円)

③ 成果

- ・正月の行事に神楽面、衣装、歴史の展示を行うとともに、書初め展、ゲーム大会を実施したところ、多数の参加があり、仮屋行事と子供神楽の復活への意識が高まった。
- ・近隣の神楽保存会の指導を得て、週1回の割合で神楽練習を行い、子供たちもメキメキ腕を上げている。

の復活

集落データ

- 市町村名 大田市
- 集落名 長久町土江自治会(土江下、土江上、土江中、土江奥、丸山)
- 戸数 25、18、33、14、16戸
- 高齢化率 42、33、28、21、29%
- ジャンル 文化、交流
- 策定年度 平成12年度

4 課題

特になし



今後のビジョン

祭りや敬老会など地域の催しで実演できるように練習を重ねる。

集落代表者の声

長久町土江自治会(土江下) 楯 義行

プラン策定に当たり実施したアンケートでは、10年位前から消滅していた地域の伝統行事である「子供神楽の復活」が圧倒的に多く、プランとして取り組むこととなりました。

実際活動に取り組むに当たっては、①子供の数が少ない②指導者がいない③神楽用具がない等の問題がありましたが、自治会・老人会・若土会・子供会が一緒になって克服し、復活させることができました。

復活して1年余りが経ち、演目も増え、町内外から出演依頼が殺到し、断るのに苦勞している現状です。

これからも、自治会が一体となった支援・協力体制により、子供神楽が伝統行事としていつまでも続くよう努力していきます。

問い合わせ先

大田市総務部企画振興課
☎0854-82-1600 (代)

棚ふる里竹炭工房

(大田市)

あづち
棚

地域の概要

市中心部から西へ8 kmほどのところ、国道9号の南側に位置する集落。JR 静間駅や郵便局などの公的施設も有り、比較的住宅が密集した地域ではあるが、高齢化が進行している。

取り組み概要

① 経過

自治会役員が集まって、プランを策定した。プラン策定にあたっては、自治会内にある竹林を何とか活用できないものかということで、竹炭工房を作ることとなった。プランの実行に当たっては、子供会から高齢者まで幅広い年代層に参加してもらえるよう工夫した。

② 取り組みの状況

① 竹炭工房の設置

整地、小屋作り、炭窯作成まで自治会有志の協力で行った。(635千円)

② 炭焼き

炭窯設置から毎月3回の割合で実施。内1度は子供も参加して行った。(35千円)

③ 成果

- ・環境にやさしいということで、自治会全戸に竹炭を配布し、実際に使っていただいたところ、非常に好評だった。
- ・炭焼きを通じて、若者と高齢者のつながりができ、地域の和という面も含めて活性化しつつある。

集落データ

- 市町村名 大田市
- 戸数 44戸
- ジャンル 産業、交流
- 集落名 静間町棚自治会
- 高齢化率 34%
- 策定年度 平成12年度

4 課題

当初静間駅駅舎会館で開催している朝市でのみ販売を計画していたが、市内の観光地にあるみやげ物販売店2ヶ所でも取り扱っていたこととなった。より多くの人に活用していただくために、販路の拡大を検討する。



集落代表者の声

静間町棚自治会 竹下 正俊

棚集落では、環境問題の解決に少しでも役立てばという思いで、集落内にある竹林を活用した竹炭づくりを進めることといたしました。

先進地の事例に学びながら、炭窯づくりを手探りではじめ、試行錯誤の上、やっと製品として販売できるようになりました。

地元の特産品として大田ふるさとセンター「ロード銀山」で販売していただいているほか、販路の確保に努めた結果、神戸方面のお茶の先生にも取り引きいただけるようになり、やっと軌道に乗り始めました。

注文に追いつくために、最近では毎月2回炭焼きを行っています。高齢者はもちろんのこと、若い世代や小中学生も参加し、集落内の世代間交流の場として、活性化に非常に役立っています。

今後は、竹炭を利用した新製品の開発にも取り組み、竹炭の普及に努めていきたいと思えます。

今後のビジョン

2基目の炭窯を作るとともに、研究を重ね良い竹炭を作り、地域の皆さんの役に立つよう努力していく。

問い合わせ先

大田市総務部企画振興課
☎0854-82-1600 (代)